

# 「境毅(バラ均)さん追悼」走り書き(改訂版)

2024・9・9/前田良典

62年同志社大学入学 63年学友会副委員長 64年学友会書記長

65年京都府学運副委員長(委員長塩見孝也)

67年洛南反戦青年委員会(関西地区反戦) 70年京都地方地域労働組合(反帝労組)結成



今どき携帯電話を持つ人が日常生活・日常業務に便利ということ  
と引き換えに国家や GAF A やプロバイダーや悪ガキが個人の頭  
脳と心に侵入するのを許し、個人の会話記録や文章記録も行動記  
録も奪われるという代償を払う時代になった。地上基地と人工衛  
星の交信でウクライナやパレスチナの現代戦が動く片方でそれ  
を民間で運用する GAF A や下請けの日本の携帯会社が携帯を利用  
する個人の情報を収集分析操作した上に利用料を徴収する時  
代になった。既に岸田内閣がマイクロソフトを御用達にしたから

政府が特定したサイトや個人に侵入するのは更に容易になっている。「バラ均」サイトが暗  
号でガードしていても公団住宅に住み奥さんが不在で死ぬと「住民を守る」という建前で  
公安が境さんの携帯を押収したらアウトだ。境さんの死でそれを改めて確認した。

境さんが亡くなって境さんの凄さを確認するとともに境さんが私を照らし返す鏡になっ  
ているのを思う。境さんと私の関係は今となって思うと細くて長ーい関係だったというこ  
とだ。私は自分のことを「ただの人」「風の人」「自由人」「柘植義春な人」「スタンダード  
人間」だと思っている。周囲の人はそうは思っていないのだが、である。ブント系と言っ  
ても独立独歩の私達の自宅(地域労組事務所)に72年重装備機動隊で包囲して赤軍にも行  
っていないのにブント赤軍系としてガサ入れされ、73年労働裁判の時は相手の共産党弁護  
士(公安情報)から私は赤報派にも行っていないのに赤報派だと言われた。前者は白八木・  
高原・塩見・蒲池・堂山・明治の斎藤・中沢・中大の久保井・早稲田の菅野・村田・荒と  
の青春グラフィティ(バカ騒ぎ)からの断定だろう。しかし後者は境さんと細くて長ーい  
付き合いから公安が推測したのか?裁判所で「労働事件とは関係ないことや」と言って思  
わず笑ってしまった。ベテラン裁判長は相手側弁護士の弁明を中止した。私は2度笑って  
しまった。私は境さんと深い付き合いではない。79年に後輩の寮生を襲ったのは誰なのか  
分からず境さんが入獄中なのも知らず境さんのグループかなと一時思ったくらいだった。  
しかし同じ田舎育ちで波長が合ったのかつかず離れずの長ーい不思議な関係になった。勝  
手に赤軍だ赤報だと断定をした東大法や京大法卒の公安検事は本当にデタラメ人間だなぁ。

しっかりした自分の考えが無く政治家の顔色を伺って出世と報酬を狙う公安検事はもっとデタラメ人間だ。靴を減らす現場刑事や派出所の警官の方が人間的に立派である。これだから冤罪事件が減らないのである。

2024年8月5日も酷い暑さだった。外出から帰って来た境さんが玄関に入ってすぐに脱血症か熱中症で倒れたことから考えて境さんには「気を着けているからまさか自分が」という思いがあったように思う。唐突な死である。というのは彼には理論的に解明すべき課題が一杯あり、それを順次解明しながら発表していたからだ。それは「ASSB」と「協同組合研究会報」である。彼は老境に入っても頭脳は明晰で自分の健康は大丈夫という思いがあったのではないか。彼は出獄後に協同組合研究会を経て1993年に新生協「エルコープ」を立ち上げた。私は研究会途中から参加した。そして規模を大きくした20年後の今年に「購買生協から総合生協へ」のロードマップをまとめ上げてそれに着手した矢先だった。彼やエルコープのメンバーが理想としたスペイン内戦後に虐げられたケルト民族のバスク地方に創られた「モンドラゴン協同組合」と違って日本ではすべての民間組織（NPO・福祉協議会・子供食堂まで）に自治省や内務省が補助金を与えて後で締め上げるパターンになったから理想の高い境さんのロードマップはこの流れに負けない核作りが大事だから実現が至難のものだ。日本で様々な民間事業を展開している人々の努力には敬意を表すがその理想は個人的でロードマップが曖昧で次々と「御上」に取り込まれて行って困窮者を切り捨てせざるを得ない状態になっている。とりわけ安倍政治以降の国の狙いは「国民の生活の隅々まで面倒を見る」を看板にして「統括」し実際は地震台風の被災者や生活困窮者の切り捨てを行い、残った者はいずれ「銃後の盾になれ」という流れがはっきりして来ているからだ。境さんの死でそのロードマップは挫折しそうである。

私達の子供の頃には日本は太平洋戦争で敗北して街々は焼け野原・闇市・傷痍軍人・被災孤児が溢れた。学校の先生方は「日本は5大国の仲間入りを言って虚勢を張ったのが間違いだ。最初から慎ましくスイスのように永世中立で行けば良かったんだ。」と言っていた。しかし間もなく朝鮮半島の悲劇を踏み台にして日本経済は復活し、「ポツダム宣言受諾」「国体護持」で復活した国のリーダー達は自分たちの戦争犯罪（一部の者の利益のために国民をアジア侵略戦争に投げ込み、ミッドウエー海戦で敗れてから“一撃和平国体護持”策に執着して沖縄地上戦と本土爆撃と広島長崎原爆を受けて終戦し、海外からの略奪財宝や国内資産を隠匿した）を隠蔽し始め、徐々にその開き直りから歴史修正運動（東京裁判の戦犯達は国民のために頑張ったんだと言う）へと展開し、拳句にA級戦犯の孫を一国の首相にしてしまった。その戦争犯罪人の孫が実行したのは景気浮揚・改革を看板にした「露わな階級国家への国家改造」であるアベノミックスと「戦争法を閣議決定」というクーデターであった。アベノミックスの助言者であり「失われた20年」を取り戻そうとしたエール大の浜田氏はその執行の3か月後に

アベノミックスの撤退を進言したが安倍首相は聞き入れなかった。そらそうだ。安倍首相の目的のアベノミックスは景気浮揚などではなくて金持ちを更に金持ちにし国民を更に貧困に落とし入れて戦争ができる国家に改造することだったからだ。「イノベーション」は経済の世代交代であり経団連の老人達はこれに抵抗し貨幣の増刷・ゼロ金利・円安による自分達の資産価値と貿易収支の増殖を嬉々として歓迎した。即ち国は「戦争ができる国家イコール実質『没落する国家』」を選んだのである。そしてUSAからの指示と経団連の欲望で国は「再びの日中戦争」の準備に入った。誰のための戦争や！ だから私は「国は国民の生活の隅々まで統括し、いずれ国民の生活を銃後の盾にしようとしている」と言うのである。老人の繰り返すが、この国民の困難さを考えると境さんの死でそのロードマップは挫折しそうだと言っている。

私は大学に入学した2年の暮れに神学生寮である此春寮で60年安保闘争に参加した世代の寮務委員が他学部生も入寮させる方針を採用して神学部教授会との間で「一般寮化」交渉を開始した。これで64年キリスト教団体の学生を中心にした私を含めて6人ほどの法経文工生が入寮した。リルケやキエルケゴールやシモーヌドワイユやサルトルを語るバルト神学生の中に放り込まれた私は戸惑った。スピノザ・ヘーゲル・マルクスの上に「ブルトマン神学」や「死海文書（エッセネ派）」やサルトルにも手を着け、イエスの時代の「原始キリスト教」とローマ帝国末期に国教化されたパウロの「バチカンキリスト教」は全く異質のものであることを知り（時代毎の政治の影響で仏教・イスラム・ユダヤ教も同様）、思想の深度や幅を広げた。この「信仰（宗教）と哲学（科学）の往復の旅」は私の幼児時代の「祈祷師とお遍路さん依存」の経験をよみがえらせた。即ちアニミズムの「憑依」と宗教の「信仰」の体感的経験です。同時並行の学友会活動を通して私は毛沢東を革命家としては偉大だが好まずカストロを評価するようになった。そして3年で学友会書記長になり4年（65年）に府学連副委員長になって全学連再建のために新開（京大）田中（同大）藤本（市大）氏の下で上京することが増えて上記の「東京組とのバカ騒ぎ」になった。しかし66年にそれに見切りをつけて上京組から離れて社会人への道に進んだ。私は大学で法学部だけど4年になっても大学の就職課を覗かずゼミの卒論（4単位）提出も忘れて、それだけのために5回生卒になった。後に職を転々としたように本当に能天気だった。京大の友人が「貴方は神学部か？」と問うたが「当たらずとも遠からず」である。私は食べて行くために境さんの学習塾の経営に協力（中高生の英語担当だったかな？）し、高瀬泰ちゃんの労働学校に協力して、後に寮先輩の紹介で東九条のキリスト教系福祉施設に就職した。67年には地区反戦を結成し、69年沖縄闘争以降から寮の先輩と「反帝労組（地域労組）」結成（70年）に進み71年に職場解雇を受けます。地域労組は今でいう「ユニオン」ですが時代が時代ですから72年に京都府警から上記のような「搜索：ガサ入れ」という大袈裟な先制攻撃を受けます。60年代後半の全国大学闘争（全共闘）の渦中の69年安田啓と沖縄闘争の後にブント学対メ

ンバーが赤軍派として分裂し、70年後にブントの中心人物の病休(まもなく田原氏は死亡)で「12, 18 路線」が崩壊し、バラ均さんと正治さんと坂井与直さんは赤報派RGとして上京して 地下活動に入った。3 人のデビュー戦だった。因みに田原氏は満州引き上げ組であり黒八木君(京大)・大森君(市大)も引揚組である。境さん等はその地下活動中の 76 年に一斉検挙に会い境さんは獄中 7 年の生活となった。長い獄中生活の後に出所して社会運動(新生協設立)に注力した。出獄して協同組合研究会をしていた 91 年頃に私は 10 年の解雇闘争を終えて彼と再会して「竹っちゃん、価値論を書いたか?」と問うた。彼は「うん、これをあげるわ。」と言ってくれたのが小さい文字で印刷した 358 頁の「価値形態・物象化・物神性」(普通文字なら 1000 頁くらいの量で¥2000)という本だった。ブントの島さん・唐牛さん・樺さん等の 60 年安保闘争の敗北後にブント労対と学対=「戦旗派とプロ通派」の一部が宗教ドグマのように閉じられた論理の「黒田価値論」にいかれてしまった。その後は内ゲバの連続で革マル中核の殺し合いが頻発し 70 年以降更にひどくなり続いた。私は黒田価値論を読んで見て「こんな閉じられた論理はマルクス主義でも何でもなし」として広松哲学を評価しつつ出獄したバラ均さんにも期待して問うたのだった。ヨーロッパでの 500 年に渡る宗教批判(科学)の蓄積に対して 100 年足らずの日本の知性では対応できず 60 年ブント労対・学対から黒寛派に行った戦旗派・プロ通派の一部はイカサマ哲学にいかれてしまったことになる。合流後に彼等(中核派)がその誤りに気づいて激しい内ゲバになった。「ヨーロッパにおける宗教批判=科学」は「暗黒の中世とモンゴルの侵攻・ペストの蔓延」からであり、「絶望・破滅と大西洋に沈む恐怖」からギリシャ文明を復活させ=ルネッサンスに着手したことにある。幾多の民族・国家の興亡を経て老荘孔孟思想を確立し既に騎馬戦と火薬を持った東洋は西洋を圧倒した。12c 南宋の時代にまとめられた近世合理主義の朱子学(四書五経)は西欧に於ける近世合理主義(宗教改革とデカルト・カント)より 500 年早い。しかし明の康熙帝や清の乾隆帝を頂点にしてその後は西洋(スペイン・フランス・イギリス)の力が東洋を圧倒し始めた。今またその逆転が始まっている。

一般にはバラ均さんの「政治武装闘争から協同組合へ」が「政治運動の否定」と思われているが、私はそうは思っていない。出獄後に「ASSB」と「協同組合研究会報」を次々と発表しながら時たま政治運動に協力したようにバラ均さんの考えは「従来の政治運動」とは違う「異質な政治闘争」の暗示・暗喩だと私は思っている。米経済学者であるスティグリッツは「アメリカ大統領選挙でトランプが勝利すれば資本主義は終わるだろう」と言った。どちらに転んでもアメリカエスタブリッシュメントの崩壊がそこまで来ているということである。政治もそうだが社会の分断崩壊が激しい。中国には敢えて台湾危機を作る必要性は無い、必要性があるのは「欲望の G-W-G 運動」の中核でありながら社会分断で国内が危ないアメリカである。オバマ・バイデンがしかければ中国は経済と宇宙でアメリカ

を牽制しつつ台湾に大包围網をかけて自壊を待たせよう。兵糧作戦である（「チャーズのように」遠藤誉氏）。アメリカはウクライナと中東の3方面同時作戦ができない。日本の自民党と経団連はアメリカから出る指示で自衛隊と国民をコマ・歯車にして戦争に投入するか（実際は無理）、あるいはアメリカの没落で手のひら返しをするか両にらみである。世界は政治のみならず社会も変化の時を迎えた。過去にスペインバスクでも北アイルランドでも社会運動の上に政治武装闘争があったように境さんは過去の政治闘争を否定したが政治運動一般を否定していない。「正・反・合」である。理論はともかくとしても境さんには人間味があり、私も心を寄せた一人だった。誠に残念です。